

市長から

邑久長島大橋が5月9日に開通30周年を迎え、長島愛生園、邑久光明園と入所者自治会による記念式典が長島側の橋のたもとで開催されました。

両園の自治会長をはじめ出席者のあいさつでは、隔離政策からの解放を象徴し「人間回復の橋」と呼ばれるこの橋の、昭和46年から昭和63年までの17年間に及ぶ、困難を極めた架橋運動が語られました。そして、人権侵害の歴史が二度と繰り返されぬよう今後力を合わせていくことが必要であると訴えられました。

平成29年11月、長島愛生園、邑久光明園、大島青松園（高松市）の瀬戸内3園の世界遺



邑久長島大橋開通30周年記念式典

産登録を目指すNPO法人「ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会」が発足し、世界遺産登録に向けた歴史的建造物の保存などに関する協議や隔離政策がもたらした人権侵害と地域社会への影響などの検証が始まりました。市としては、これらの事業に対するクラウドファンディングによる財政支援だけでなく、さまざまな教育の場を通

じ、人権に対する正しい知識を広め、議会の皆さん、市民の皆さんとともに人権問題に向き合う社会を作ることに取り組んでいく所存ですので、ご理解とご協力をお願いします。また、岡山県消防学校で5月20日、第65回岡山県消防操法訓練大会が開催され、瀬戸内市を代表して出場した長浜分団が小型ポンプ操法の部において、瀬戸内市として過去最高の第3位の栄誉に輝きました。

さらに出場選手のうち2番員の団員が、瀬戸内市消防団としては初めて優秀選手として表彰を受けました。今回の結果は、選手が年間通じて行ってきた厳しい訓練と、それを支えてきた消防関係者の努力のためものです。近年全国的に消防団員の確保が困難な状況となっていま

すが、ゲリラ豪雨や地震などによる大規模災害が頻繁に発生している状況下において、共助の中心的存在である消防団は非常に重要な役割を担っています。市としても今後も団員確保や消防団活動に対し、積極的な支援をしていきたいと考えています。

市営バスの運行状況

平成29年11月1日から市内3路線で運行を開始した市営バスの運行状況について、運行開始から平成30年4月末までの乗客数は、3路線合計で2,766人、一便当たりの平均乗車人数は、1.0人となっています。

路線ごとの乗車人数は、牛窓く邑久駅線1,067人、西脇く邑久駅線447人、美和線1,252人でした。

用語の解説・備考

クラウドファンディング
不特定多数の人が通常インターネットを経由して他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。
発明品の開発やプロジェクトへの貸し付けなど、幅広い分野への出資に活用されている。

むという状況を見据え、引き続き公共交通の利用促進を図っていく必要があります。

ので、「瀬戸内地域公共交通網形成計画」に基づき、未導入エリアへの新たな公共交通の導入検討など、引き続き公共交通不便地域の解消を進め、外出機会の増加による健康増進、地域経済の活性化などにつなげていきたいと考えています。

市民税などの コンビニ納納の推進

平成30年度から、固定資産税、軽自動車税、市民税、国民健康保険税、介護保険料および後期高齢者医療保険料の普通徴収分として、1件30万円未満のものは、コンビニでの納付が可能となっています。4月に納税通知を行った固定資産税では、5月7日現在で窓口納付10,018件中、808件がコンビニ納付となりました。

今後も広報紙・市ホームページなどでPRを進め、納

税者の利便性向上に努めていきます。

ハンセン病療養所世界遺産 登録推進プロジェクト

「ハンセン病療養所世界遺産登録推進プロジェクト」の名称で認定申請を行っていた、企業版ふるさと納税を活用した地域再生計画は、4月に内閣府の認定を受けることができました。

計画認定に基づき、NPO法人が実施する学術調査事業などを支援していきます。

産後母子支援事業

産後うつや新生児への虐待予防などを図る観点から、産後間もない時期の産婦に対する健康診査の重要性が指摘されています。このため、平成30年10月から国の補助事業を活用して、産婦健康診査、産後ケア事業を導入したいと考えています。

産婦健康診査事業については、健診に係る費用を助成す

ることで、産後の初期段階における母子に対する支援を強化し、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援体制を整備しようとするものです。

また、産後ケア事業については、産後に心身の不調や育児不安などがある退院直後の母子を対象とし、産婦人科病院などの空きベッドを活用し、休養の機会を提供するとともに、不安軽減のための心理的ケアや育児に関する指導などを実施し、産後も安心して子育てができる支援体制を確保しようとするものです。

吉井川流域DMOの 進捗状況

本市と赤磐市、和気町の2市1町で進めていた吉井川流域DMOは、設立準備会において、有識者の意見を踏まえた慎重な議論と関係者との調整を重ね、5月30日に一般社団法人吉井川流域DMOとして、第1回目の理事会を開催し、正式にその業務をスタートしたところです。



DMOは、各地域の観光資源を広域的に結び付ける役割を果たします

DMO（Destination Marketing Organization）は、各町に点在する地域資源、歴史や文化コンテンツなどの収集・整理を行い、主にインバウンド向けの観光資源として、それぞれの地域を広域的に結び付ける役割を果たし、「観光地づくりの舵取り役を担う法人」となることを期待されています。

市では、この吉井川流域DMOの事業に期待をしつつ、今後も3市町で協力し、しっかりとしたチェックしながら、この「インバウンド対策としての広域連携事業」に関与していきます。

瀬戸内市民病院の 患者数の状況

平成29年度の患者数は、入院が35,083人で平成28年度と比較して5,322人の増加、1日平均96.1人で病床稼働率は87.3%となりました。

また、外来が48,638人で平成28年度と比較して3,550人の増加、1日平均199.3人となりました。平成30年度は、1日平均入院患者数100人、病床稼働率90.9%、1日平均外来患者数230人を目標として運営に取り組んでいきます。

教育委員会では、瀬戸内市の教育大綱の5つの重点施策を柱として、教育行政を推進します。

学校教育においては、学ぶことは楽しい、もつと学びたいと思う子どもたちが増え、

「求められる資質・能力」が一人一人に身に付くよう、学びの基本である授業の改善およびそれを支える教育環境の改善を推進します。

特に、学力向上を図るため各学校における授業改善を推進するとともに、教育委員会事務局としても各学校への指導・支援の充実を図っていきます。

また、道徳および小学校での外国語の教科化、各学校教育の円滑な接続、特別支援教育の充実などに取り組んでいきます。

社会教育に関しては、知の拠点としての市民図書館と活動の拠点である公民館をつな

ぐ取り組みを通して、生涯学習の機会をさらなる充実を図るとともに、歴史・文化の保存・継承に努めます。

特に、地域の特色ある資源を活用した事業や体験型学習の機会の充実、社会教育施設や関連機関との連携事業、また市民の皆さんとの協働事業などを推進していきます。

学校教育の充実

学習指導要領の改訂により、「特別の教科 道徳」について小学校が平成30年度、中学校が平成31年度、小学校における外国語が平成32年度にそれぞれ教科化されます。この動向を踏まえ、教育委員会では、「道徳の時間の充実」、「外国語教育の充実」および「教育の情報化の推進」の3つの研究事業の実践校として小学校3校、中学校1校を指定しました。

これらの事業による研究成果は、地域や校種を越えて市内全域で共有し、日々の授業実践の質を向上させるための

研修に反映していきます。これらの取り組みは生徒指導、特別支援教育の充実と併せて、新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むことを狙いとしています。

夢二のふるさと

芸術交流プロジェクト

2年目となる平成30年度は、夢二のふるさと芸術交流プロジェクト実行委員会を中心に、第2回夢二コンクールやプレミアムコンサートを実施します。市民枠として夢二にちなんだ関連イベントを一般募集しており、市民の皆さんとともにコンクールを盛り上げます。

また、市民の皆さんとの協働事業の一環として、夢二生



第1回夢二コンクールの様子

誕月の9月には市民グループによる夢二の人形劇上演と夢二郷土美術館の学芸員の解説による対話型絵画鑑賞会を開催します。

会場では市民製作の夢二に関する作品の展示も行い、音楽だけでなく、夢二に関するイベントを実施してプロジェクトを盛り上げ、芸術文化による活力あるまちづくりを目指します。

国宝「太刀 無銘一文字 (山鳥毛)」購入を目指して

5月28日の議会全員協議会および2回の総務文教常任委員会、岡山県内の個人が所有する国宝「山鳥毛」を、ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディングにより購入を目指すことなどを説明しました。

今後は、できるだけ早急に外部評価委員会を開催し、瀬戸内市が国宝を購入することの意義および資産価値の評価について意見を聴取する予定にしています。

備前長船刀剣博物館で特別展を開催

博物館では、6月29日から「開館35周年記念 日本美術刀剣保存協会 岡山県支部 創立70周年 特別展「古今東西刀匠・職方列伝パートII」」を開催します。

今回の特別展では、「友成」や「長光」など備前を代表する太刀や「国俊」の脇指など国内の名品を県内外から40口程度展示します。

▽開催期間 6月29日(金)～9月2日(日)
※休館日は毎週月曜日。月曜が祝日の場合は翌日が休館日。ただし、8月13日(月)は開館します。
▽開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

▽場所 備前長船刀剣博物館
▽入館料 一般500円、大生以下無料、団体(20人以上)割引あり
備前長船刀剣博物館
☎0869-66-7767

平成29年度瀬戸内市応援寄附 (ふるさと納税) 実績報告



セツトちゃん

全国47都道府県の皆さんから1億4,262万5千円のご寄附をいただきました

☎秘書広報課 ☎0869-24-7095

ふるさと納税とは?

ふるさと納税とは、自分の生まれ育ったふるさとの自治体や応援したい自治体に寄附を行う制度です。

寄附は、出身地に限らず、全国どこの自治体に対しても行うことができます。

市では、「ふるさと納税制度」がスタートした平成20年から「瀬戸内市応援寄附条例」に基づいて、いただいた寄附金を寄附者の意向に沿った事業に活用しています。

平成29年度に全国の寄附者から本市へ寄せられた寄附金は、総額1億4,262万5千円でした。

いただいた寄附金は「瀬戸内市応援基金」に積み立て、寄附金の使い道に沿った6つの事業に活用しています(下表参照)。

寄附金の使い道	件数(件)	金額(円)
①産業の振興に関する事業	635	14,073,000
②自然または環境の保全に関する事業	1,236	23,132,002
③医療または福祉の充実に関する事業	791	27,879,000
④教育、文化またはスポーツの振興に関する事業	1,026	27,686,000
⑤安全・安心なまちづくりに関する事業	208	3,321,000
⑥人権に関する事業	142	5,235,000
市長におまかせ	2,006	41,299,000
合計	6,044	142,625,002

【平成29年度の実績】

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

寄附件数

6,044件

寄附金額

1億4,262万5千円

平成29年度の主な使い道



- 産業の振興に関する事業
 - ・kireiなモノ・コト・トコ発見発信事業 5,000,000円
 - ・有害鳥獣等捕獲補助事業 1,982,000円

- 自然または環境の保全に関する事業
 - ・資源ごみ回収団体報奨金 4,206,000円
 - ・公共施設CO2排出削減対策モデル事業 11,757,000円
 - ・ごみ集積所設置補助金 1,100,000円

- 教育、文化またはスポーツの振興に関する事業
 - ・学校力向上事業 2,253,000円
 - ・セーリング振興活動補助金 2,452,000円
 - ・幼稚園、小学校外国人講師派遣事業 5,790,000円
 - ・牛窓海遊文化館管理運営事業 802,000円
 - ・図書館管理運営事業(図書整備) 731,000円

- 安全・安心なまちづくりに関する事業
 - ・空家等対策事業 1,240,000円
 - ・防犯灯整備工事費 464,000円

- 医療または福祉の充実に関する事業
 - ・小児医療給付費 単市拡大分 11,947,000円
 - ・医療機器整備事業 7,020,000円
 - ・保育園備品購入費 1,632,000円

